

## 第6学年 国語科学習指導案

指導者 鈴木 敦子

本時のねらいに迫る一工夫	児童が自分自身の考えを深めることができるよう「山のいのち」との比べ読みを取り入れたり、立松和平氏の【実際の声】を聞かせたりする。
--------------	--

### 1 単元名 立松和平氏のいのちシリーズ作品をショーウィンドウでおすすめしよう

#### 2 単元を貫く言語活動とその特徴

本単元を貫く言語活動として、児童が選んだ立松作品の魅力を友達や4年生5年生の児童に向けて作成したショーウィンドウを使い、パビリオン形式で紹介しておすすめすることを位置付けた。ショーウィンドウの内容は、キャッシュコピー、魅力ある場面、登場人物の紹介や相互の関係、物語が最も強く語りかけてきたこと、作品をおすすめする言葉という5つの観点で構成する。作品を紹介する際は、優れた叙述に着目したり、登場人物の生き方や考え方を評価したりして作品を読み、その特色を他の読み手に伝わるように説明したりすることが求められる。従って、「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」(C 読むことエ)と「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。」(C 読むことオ)を実現するのにふさわしい言語活動と考えた。

#### 3 単元について

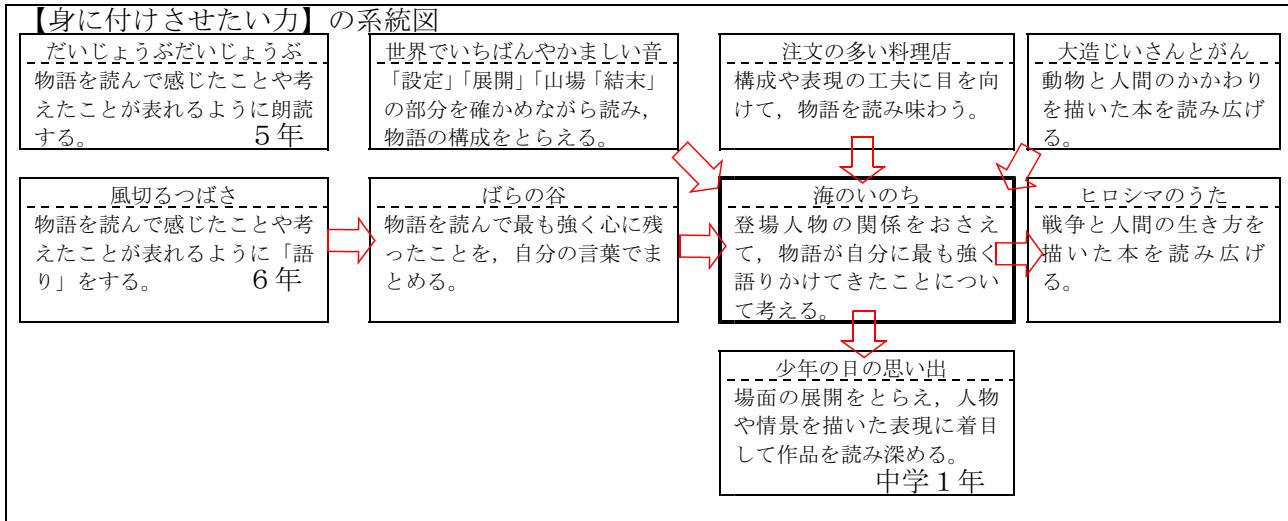
##### (1) 児童観

児童は、5年生の1学期には「世界でいちばんやかましい音」において、物語の構成を捉え、場面の展開に即して人物の変化を読み取り、物語のおもしろさを味わうことができた。5年生の2学期には「注文の多い料理店」において、物語の構成を押さえたり、場面展開に即した優れた叙述やおもしろさを探したり、友達に伝わるようにまとめることができた。さらに、6年生になり、「風切るつばさ」においては、物語を読んで自分が強く感じたことや考えたことが表れるように語りの発表会を行うことができた。また、「ばらの谷」では、推薦文を書くことを通して、物語を読んで最も強く心に残ったことを、自分の言葉でまとめることができた。

本単元の学習をするにあたって行った意識調査と平成\*年度県学力診断テストの結果は、以下の通りである。

設問	正答人数	実施 6年*組 *人
【平成*年度県学力診断テスト6年生】		
⑯ □に入る言葉と、そのときの気持ちの組み合わせとして最もよいものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を□の中に書きなさい。 ア ほこらばせた・・・うれしい気持ちも イ くもらせた・・・うたがう気持ち ウ かがやかせた・・・期待する気持ち エ ゆがませた・・・くやしい気持ち	ウ *人	イ *人
⑰ 次の表の□の中に、●のところの気持ちを書きましょう。相手に話すような言葉を書きなさい。 ○ 手についていたカメラを、落としてしまった。 ○ すでに涙目になった。 ● 「でも、ちょっとだけおりてみる。」 ひざはふるえていた。 ○ 「ほんと？」	(例) 大切なカメラを取りに行きたいけど、崖を下りるのは、こわいよう。 *人	・やだなあ。こわいなあ。 *人 ・不安だなあ *人
実態調査 (意識調査から)		
本を読んで友達に紹介するとき、主に何を中心に伝えたいですか。 表現・叙述 *人 物語の構成 *人 登場人物 *人		

実態調査から、児童は本を読んで友達に紹介するとき、主に表現や叙述を中心に伝えたいという意見が多数を占めた。児童の読む力は、平成\*年度県学力診断テストでは「文脈に即して心情を読み取る力」の設問の、正答率は\*%（県平均\*%）であった。また、「人物の相互関係に基づいた行動や会話、情景などを通して心情をとらえる力」の設問では、正答率は\*%（県平均\*%）であった。テストの結果から、児童は、物語を読んで心情をとらえ、自分なりにまとめるることはおおむねできるようになってきた。しかし、叙述に着目して登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を的確に捉えた上で、作品が自分に最も強く語りかけてきたことについて自分なりの考えをもつところまで至っていない。



### (2) 教材観

本単元は、小学校学習指導要領国語における第5学年及び第6学年「C 読むこと」の指導事項エ「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」と指導事項オ「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。」を受け、設定したものである。本教材「海のいのち」は、構成が「設定」「展開」「山場」「結末」という基本的な四つの部分からできており、場面の情景も児童にとって理解しやすくなっている。物語は、中心となる人物である太一を中心として展開する。太一は父や与吉じいさなど、周りの人物とのかかわりの中で成長していく。人物と人物がどのようにかかわっているか、それが物語全体にどのように影響するのか着目させ、直接的な表現だけでなく暗示的に示された事柄にも着目させながら、人物の心情を深く読み取ることができる作品である。また、並行読書教材として扱う「山のいのち」は、立松作品の「いのちシリーズ」の中で、「海のいのち」に作風が最も近く、児童が場面場面において比べ読みがし易い作品である。読むときの視点として、「登場人物」・「出来事」・「言葉」「描写」などを掲げ、それぞれ文章から共通点と相違点を見付け、二つの物語の共通点から、物語が自分に強く語りかけてきたことを読み取り、発表し合うという交流を充実させて児童一人一人の考えを深めていきたい。

### (3) 指導観

本単元ではこれまでに国語の学習を通して習得してきたことを活用して、今回の課題「作品が自分に最も強く語りかけてきたことについて自分なりの考えをもつ」という指導事項を習得させたいと考える。物語を友達におすすめする中で、叙述に着目し、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を的確にとらえた上で、作品が自分に最も強く語りかけてきたことについて自分なりの考えをもつことができるよう言語能力を育成したい。このねらいと児童の実態から、単元を貫く言語活動として児童が選んだ立松作品の魅力を友達や4年生・5年生の児童に作成したショーウィンドウを使いパビリオン形式で、紹介することを位置付けた。第1次は、立松和平のいのちシリーズをショーウィンドウで紹介するという言語活動を課題とし、単元の見通しをもつ。その際に、並行読書として「山のいのち」の物語を副教材として扱うことと知らせて学習計画を立てる。第2次は、「海のいのち」を友達におすすめするということでショーウィンドウにまとめる活動を行う。その際に、今まで習得した言語能力を活用し、登場人物や場面、キャッチコピー、物語が最も強く語りかけてきたこと、おすすめの言葉をグループや全体で話し合いながら一人一人の文章を仕上げていく。また、毎時間、終末に「山のいのち」を取り上げて、「海のいのち」と比べる。特に、第6時では、二つの物語を読み比べ、「物語が最も強く語りかけてきたこと」について自分の考えをまとめていく。そして、第7時では、それまでの読みを生かし、二つの物語の共通点と相違点を挙げ、そこから課題解決に入っていく。ショーウィンドウの最後の仕上げは、おすすめの言葉を入れる。第3次は、立松和平氏のいのちシリーズから一人一人が一冊選び 物語が自分に最も強く語りかけてきたことについて考え、2次で習得した作品をおすすめする表現力を活用していく。その際に、まとめることが困難な児童に対しては、一度学習している「山のいのち」でまとめていくことを助言する。また、事後として朝の時間に、4年生・5年生の各教室を回り、作成したショーウィンドウを使ってパビリオン形式で物語をおすすめしていく。

## 4 単元の指導目標

- 物語に興味をもち、物語が自分に最も強く語りかけてきたことを考えながら読んだり、ショーウィンドウで伝えたりしようとする。  
(国語への関心・意欲・態度)
- 優れた叙述に着目しながら、中心人物の心情の変化を読み取り、物語が自分に最も強く語りかけてきたことを捉え、ショーウィンドウにまとめることができる。  
(読むこと)
- 文や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。  
(読むこと)
- 文や文章にはいろいろな構成があることや比喩表現について理解することができる。  
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

## 5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>物語に興味をもち物語が最も強く語りかけてきたことを考えながら読んだり、ショーウィンドウで伝えたりしようとしている。</li> <li>自分がショーウィンドウでおすすめしようと考えた理由を明らかにしながら、おすすめする本を繰り返し読もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語の構成を捉え、登場人物の相互関係や心情を想像して読んでいる。</li> <li>物語をショーウィンドウにまとめるために、優れた叙述に着目しながら中心人物の心情の変化を読み取り、物語が自分に最も強く語りかけてきたことを捉えている。</li> <li>物語を読んで、共通点や相違点を明らかにし、そこから自分の考えを広げたり深めたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文や文章のいろいろな構成や比喩表現について理解している。</li> </ul>

## 6 単元の指導計画（11時間扱い）本時は第7時

次	時	主な学習活動	主な評価
1	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「立松和平氏のいのちシリーズ作品をショーウィンドウで紹介しよう」学習課題を設定し、単元の見通しをもつ。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>①「立松和平」いのちシリーズの作品について知り、教師が作成したショーウィンドウを見て、学習のねらいを確認し、学習計画を立てる。</li> <li>②教材文「海のいのち」を読んで、初発の感想を交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物語に関心をもち、友達にショーウィンドウでおすすめできるように考えながら学習計画を立てている。（関心・意欲・態度）</li> <li>教材文に興味をもち、物語を想像しながら読もうとしている。（読む能力）</li> </ul>
2	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教材文「海のいのち」を「山のいのち」と比べて読み、パビリオン形式で発表するショーウィンドウにまとめる。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>①登場人物の心情や人物の相互関係について読み取り、登場人物についてまとめる。</li> <li>②表現の仕方や物語の構成を捉えて、「魅力ある場面」を選び、まとめる。</li> <li>③「キャッチコピー」を考え、まとめる。</li> <li>④「山のいのち」と読み比べて、「物語が最も強く語りかけてきたこと」に対して自分の考えをまとめること。</li> <li>⑤「物語が最も強く語りかけてきたこと」とは何かを話し合い、自分の考えを深め、まとめる。（本時）</li> <li>⑥「おすすめの言葉」を話し合い、自分の言葉でまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の心情や相互関係を捉えている。（読む能力）</li> <li>物語の構成を捉えている。（言語についての知識・理解・技能）</li> <li>6つの場面から魅力ある場面を選び、その場面と理由を書いている。（読む能力）</li> <li>作品の中で印象に残る文を書き出し、キャッチコピーを書いている。（読む能力）</li> <li>「物語が最も強く語りかけてきたこと」に対して自分の考えをまとめている。（読む能力）</li> <li>「物語が最も強く語りかけてきたこと」とは何かを話し合い、自分の考えを深め、まとめている。（読む能力）</li> <li>「おすすめの言葉」を話し合い、自分の言葉でまとめている。（読む能力）</li> </ul>
3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○立松和平氏のいのちシリーズ作品の中からおすすめしたい本を選び、ショーウィンドウにまとめて発表する。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>①立松和平氏のいのちシリーズの中からおすすめしたい本を選んでショーウィンドウにまとめる。</li> <li>②立松和平氏のいのちシリーズの中からおすすめしたい本を選んでショーウィンドウにまとめる。</li> <li>③友達に向けてショーウィンドウを使い、立松作品のいのちシリーズの中から選んだ作品をおすすめする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おすすめしたい本を選び、5つの観点をショーウィンドウにまとめている。（読む能力）</li> <li>おすすめしたい本を選び、5つの観点をショーウィンドウにまとめている。（読む能力）</li> <li>自分の選んだおすすめしたい物語を意欲的にショーウィンドウで伝えようとしている。（関心・意欲・態度）</li> </ul>
事後	課外	<ul style="list-style-type: none"> <li>○朝の読書の時間に、4年生・5年生の各学級を回り各自が作成したショーウィンドウを使ってパビリオン形式で紹介し合い、立松作品を読む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的にショーウィンドウで伝えようしたり、友達の紹介を聞いて興味をもった物語を進んで読もうとしたりしている。（関心・意欲・態度）</li> </ul>

## 7 本時の指導

### (1) 目標

「海のいのち」と「山のいのち」を読み比べて、「二つの物語が最も強く語りかけてきたこと」とは何かを話し合い、自分の考えを深めてショーウィンドウにまとめることができる。

### (2) 準備・資料

ショーウィンドウのグッドモデル、挿絵、ワークシート、短冊カード、学習計画表（振り返りカード）、CDラジカセ、筆者の声が入ったCD

## (3) 展開

## 個に対する指導の充実を図るために留意点

※は、道徳との関連及び留意点

学習活動・内容	指導上の留意点(・) : 評価(◇)
<p>1 学習のウォーミングアップをする。 ・「海のいのち」の新出漢字の練習</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <p>「海のいのち」と「山のいのち」を読み比べて、物語が最も強く語りかけてきたことについて考えよう。</p> <p>3 読みの視点を確認する。 ・登場人物・出来事・言葉・描写</p> <p>4 「海のいのち」の文で自分が一番心を打たれた部分を音読する。 ・自由読み</p> <p>5 「山のいのち」と比べ読みをして共通点や相違点を確認する。</p> <p>〈相違点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海と山</li> <li>・父親の存在</li> <li>・育ってきた環境・自然との出会い</li> <li>・長い時間の姿とひと夏の体験での姿</li> </ul> <p>〈共通点〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・題名</li> <li>・男の子とおじいさん</li> <li>・自然の中</li> <li>・生と死</li> <li>・「千匹に……生きて行けるよ」</li> <li>・「あれも……まわっているんだよ。」</li> </ul> <p>6 「海のいのち」「山のいのち」で「物語が最も強く語りかけてきたこと」について交流し深める。</p> <p>(1) グループで話し合う。</p> <p>(2) 一斉で話し合う。</p> <p>(3) 「物語が最も強く語りかけてきたこと」について自分の考えをまとめること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然と向き合い、自然の恵みにつねに感謝を忘れず、祈るような気持ちで生きることが私たち本来の生き方。</li> <li>・自然は父であり、母である。自然を殺してしまっては、人は絶対に生きることはできない。</li> </ul> <p>7 『作者 立松和平氏』の声を聞く。</p> <p>8 「物語が最も強く語りかけてきたこと」についてショーウィンドウに書き入れる。</p> <p>9 本時のまとめをし、次時の課題を知る。</p> <p>おすすめする文章について考え、ショーウィンドウにまとめよう。</p>	<p>・前面に掲示してある漢字短冊を指しながら読み、漢字を読む力を高められるようにする。</p> <p>・口の開け方、声の大きさなどを確認する。</p> <p>・学習計画表から前時までの学習を振り返り、学びのノートやワークシートを活用し、それを基にした話合いで意見を交流させながら、自分の考えを深め、ショーウィンドウにまとめていく学習であることを確認し、本時の学習への意識を深めたい。</p> <p>・題材を強く意識させる出来事や言葉、描写などの読みの視点に着目すれば課題解決につながることに気付かせたい。</p> <p>・「山のいのち」と比べて読むことを指示する。</p> <p>・「物語が最も強く語りかけてきたこと」を強く意識させる出来事や言葉、描写に着目して読むよう指示する。</p> <p>・「物語が最も強く語りかけてきたこと」を強く意識させるため「山のいのち」と比べ読みをする。</p> <p>・先に相違点を出し、次に共通点を出すようにして、「物語が最も強く語りかけてきたこと」にスムーズに入れるようする。</p> <p>・相違点の中に言葉は違っているが、共通する意味があるということを知らせる。</p> <p>・共通点から、「物語が最も強く語りかけてきたこと」を見付けていくよう話す。</p> <p>・共通点や相違点について、短冊カードを用意しておき、児童の発表の中になかったものに関しては、教師側から提案できるようにしておく。</p> <p>・児童主体で交流できるよう指導する。</p> <p>・話合い活動が活発にできるように、事前にワークシートに自分の考えを書かせておくようにしたい。また、児童が自信をもって発言できるよう、教師はワークシートにコメントを入れておく。</p> <p>・自分の考えに自信をもたせるために、討論に入る前にグループの話合いを取り入れ、共感させる。</p> <p>・根拠となる言葉を明確にしながら、具体的に「教科書の………の言葉からこう考えました。」というように、自分の言葉で表現させたい。また、友達のよさを見つけながら聞かせたい。</p> <p>・自分の考えと友達の考えを関連付けながら、発表するように指示する。</p> <p>※友達の意見を尊重し、話し合うことができるよう声をかける。</p> <p>・まとめることが困難な児童に対しては、交流の中で友達から出た意見を参考にして書くように助言する。</p> <p>・作者の声を聞くことで、作者のいのちに対する思いを知り、深く味わうことができるようしたい。</p> <p>・作者の声を聞くことでさらに深まった「物語が最も強く語りかけてきたこと」についてショーウィンドウにまとめる。その際にそれに対する自分の考えも入れることを伝える。</p> <p>・完成した児童の作品を紹介する。</p> <p>◇ 「海のいのち」と「山のいのち」を読み比べて、「物語が最も強く語りかけてきたこと」とは何かを話し合い、自分の考えを深めてショーウィンドウにまとめていく。 (ショーウィンドウ・発表)</p> <p>・本時の課題の達成度や分かったことは何かなどを振り返りカードに記入するよう指示する。</p> <p>・次時の課題を学習計画表で確認し、学習意欲を喚起できるようにする。</p>